

## 創立当初の設立趣意書

大きくは日本経済の再建と充実、小さくは郷土熊谷の発展をはかるための商工業の振興は私たち熊谷に居住し実業に従事する青年経済人の双肩にかかっていると謂うも過言ではない。

今や講和も成立し新生日本として独立の初声を挙げたのであるが未だ諸般の情勢より事實は極めて苦難が多く今こそ全国民の自覚と努力と団結が要望される秋だと信ずる。国運と経済とは切離すことの出来ないことは今更ここで述べる迄もないが現下我国に於いて特に経済の充実こそ必須の問題であると思う。

国内経済を充実させ以て国際経済と密接なる提携が出来てこそ独立国家日本として列国に伍して行けるのである。此の重要な役割を持つ経済界の大半の任務を負って居る私達青年経済人はあらゆる機会を捉らえて自ら修養し常に語り強く団結してゆかなければならないと思う。

此の趣旨により既に欧米各地に於いては青年会議所が設立され1946年には之等の世界的連絡機関として国際青年会議所さえ設立されているのである。また我国に於いても戦後各地に設立され此の活動は益々活発になりつつある現状であるが埼玉県下に於いては未だ青年会議所の設立せられているところはない。隣県群馬に於いては既に前橋、桐生、高崎、渋川、伊勢崎等に設立せられて居り商工業発展の面に大きな活躍を続けている。

現下目まぐるしい移り変る社会情勢や経済情勢裡り在り、加え、高崎線電化完成に伴いこれからの商工業の歩みが大きく変わろうとしている現状に於いて自他共に認むる県北商工業の中心都市である熊谷市こそ青年会議所の存在が必要なる所以である。而して中小企業経営研究、生産、販売技術の向上、産業振興政策の樹立独立後の日本経済の動向の研究等山積みしている現実の問題と若き青年の情熱と強い団結により漸次研究解決しよりよき郷土熊谷の建設と自己の修練と事業の隆昌を図りたいと思う。

茲に当熊谷青年会議所設立のために青年経済人諸氏の積極的な御協力と御賛同をお願い致したく心より念願してやまない次第である。

昭和27年4月